

会議録

会議の名称	平成27年度第1回北播磨広域定住自立圏共生ビジョン懇談会		
開催日時	平成27年10月6日（火）午後7時～午後9時		
開催場所	加西市健康福祉会館 2階 研修室1		
議長の氏名（座長 池田 潔）			
出席及び欠席委員の氏名			
＜出席委員＞ ・藤本 隆文 ・岩佐 文雄 ・足立 保雄 ・本岡 賢二 ・深田 美香 ・原田 康弘 ・笈 一義 ・芹生 一二 ・長井 孝章 ・大山 高弘 ・竹内 宏（代理：日下部 達也） ・熊谷 佳代 ・池見 和身 ・吉田 恵子 ・池田 潔			
出席した事務局職員の氏名及びその職名			
＜加西市＞ ・理事 一幡 孝明 ・ふるさと創造部長 西岡 義信 ・ふるさと創造部人口増政策課長 千石 剛 ・ふるさと創造部人口増政策課主任 小林 和敏		＜加東市＞ ・協働部長 芹生 修一 ・協働部企画協働課長 長谷川 茂 ・協働部企画協働課副課長 前中公和 ・協働部企画協働課主幹 小林 寿泰	
説明者として出席した市の職員			
・加西市及び加東市関係職員 22人			
オブザーバー			
＜西脇市＞ ・都市経営部次世代創生課 課長及び課長補佐		＜多可町＞ ・プロジェクト推進課 課長及び副課長	
1 議 事			
(1) 報告事項			
ア 定住自立圏構想について			
イ 北播磨広域定住自立圏の形成等に係る取組状況について			
ウ 北播磨広域定住自立圏共生ビジョン策定スケジュールについて			
(2) 協議事項			
ア 北播磨広域定住自立圏共生ビジョン懇談会の運営について			
イ 北播磨広域定住自立圏共生ビジョン（素案）について			
ウ 北播磨広域定住自立圏共生ビジョン（案）のパブリックコメントについて			
2 会議資料			
北播磨広域定住自立圏共生ビジョン（素案） ほか			
3 会議の経過			
⇒別紙「平成27年度第1回北播磨広域定住自立圏共生ビジョン懇談会・会議の経過」のとおり			
平成27年11月18日			
座長 池田 潔			
副座長 岩佐 文雄			

(別紙) 平成27年度第1回北播磨広域定住自立圏共生ビジョン懇談会・会議の経過

発言者	会 議 の 経 過 / 発 言 内 容
・委員 ・事務局 ・委員 ・議長 ・委員 ・事務局 ・委員	1 開会 2 加西市長・加東市長挨拶 3 委員等出席者の紹介 4 座長・副座長の選出〔資料1〕 座長に池田潔氏、副座長に岩佐文雄氏を選任 5 協議 (1) 報告事項 事務局から一括説明 ア 定住自立圏構想について〔資料2〕 イ 北播磨広域定住自立圏の形成等に係る取組状況について〔資料3〕 ウ 北播磨広域定住自立圏共生ビジョン策定スケジュールについて〔資料4〕 【質疑応答等】 ・余りにもタイトなスケジュールになっている。なぜここまで急がれるのか。 ・中心市において8,500万円という財政支援があるが、この計画ができなければその支援が受けられない。その支援を受けるには、12月の初めあたりに共生ビジョンを県を通じて国へ提出し、その内容を国で認めてもらわないといけない。そのスケジュールの中で何とか間に合わせるために、タイトなスケジュールになっている。何卒理解をいただきたい。 ・行政側の都合もあると思うが、もう少しゆとりを持った形でないと、皆さん方に失礼だと思う。 ・確かにおっしゃられているとおりであるが、これは一つに国が絡んでいる事業で、大学においても同じような事例があり、国の命令みたいな感じでされるところがあって、これは下に仕える者としては、どうしようもないところが国に対してある。多分今回のことに関しても今説明のあったとおりだと思う。ちょっとそこは曲げてお願いする形になるが、よろしく願いしたい。 ・パブリックコメントの実施結果については、2回目の懇談会において発表ということであるが、その公開はどのようにされるのか。 ・実施結果については、懇談会において報告するが、市ホームページでも公表する予定にしている。 (2) 協議事項 それぞれ事務局から説明 ア 北播磨広域定住自立圏共生ビジョン懇談会の運営について〔資料5〕 意見等なし（原案どおり承認） イ 北播磨広域定住自立圏共生ビジョン（素案）について〔資料6〕 【質疑応答等】 ・地域医療構想というものが進められており、北播磨地域が2次医療圏ということになるが、その病院の病床機能を再編していくという流れがある。加西病院、加東市民病院、西脇市民病院が急性期病院ということで運用しているが、国の考え方は、その急性期病床を大幅に減らしていくということで進んでいる。今の段階ではまだ県の方もきっちりとした数字の整理ができていないので、こういった形になるかわからないが、北播磨で言う急性期の病床が650床ぐらい多いという話がある。そういうことをそのまま受け入れてしまうと、いわゆる地域医療というものが根幹から崩されてしまうという状況になっていく可能性がある。そういう意味では、この圏域で十分にスクラムを組んで、県に対して地域医療の必要性というものを十分に伝えていかないと、肝心の地域医療の中核となる病院がそれなりの機能を果たせないということになってくる。それこそ大きな病気にかかると、北播磨以外のところへ治療を受けに行かないといけないという状況が出てくるということがあ

	る。 ・今、非常に医師の確保に困難をきわめており、互いに医師の応援をすることによって、近くの病院で診察を受けていただくという状況をつくっていかないといけないと思う。病院フェスタであるとか、あるいは住民フォーラムというものを通じて、そういった状況も十分に認識をしていただいて、自分たちの地域、自分たちを守るという思いを持っていただくためにも、こういったことの取組というのは必要なのかなと思う。地域医療ビジョンというものが出されて、こういった状況になってくるかも踏まえながら、よりよい形になし上げていく、そういう必要があるのかなと考える。 ・圏域の将来像については、北播磨3市1町の圏域で将来はどのような目指すべき姿になるのか、それをしっかりと捉まえて、それに向けてはこういう28項目の取組、施策が必要であるというような形に持っていくものだと思うが、現行の将来像では余りにも心もとないと思う。育まれた生活文化、産業や地域固有の風土のもと、地域資源を活用してと書いてあるが、この部分をもう少し掘り下げて書くべきではないか。余りにも抽象的過ぎて、将来像が見えてこない。 ・これから地域医療の急性期から慢性期医療に移行していく、在宅医療という大きな問題がある中で、一つ一つできるところから地域医療として連携を図る取組が必要であると思うが、そういう中で今北播磨県民局では地域医療連携システムとして、北はりま絆ネットを運用されている。これは電子カルテを導入している病院が保有する患者の診療情報をいろいろなところで公開していくということであり、患者、医療機関、介護老人保健施設にとっていろんなメリットがあるが、まだまだもっと強化を図る必要があると思う。患者へのPRを含めて、このようなものを医療体制の確保の取組の中に入れたらどうかと思う。 ・障がい児発達相談強化事業であるが、役割分担の加西市のところに、加西病院から医師等を派遣しと書いてある。これは加西病院だけでなく、医療福祉センターきずなからも小児科のドクターが2人、加西市、加東市、西脇市、多可町の市町に発達相談に行っているの、ここで加西病院だけを取り上げるのはいかがなものかと思う。 ・福祉の子育て支援の充実として児童虐待防止事業が上がっている。必要なことではあるが、これが子育ての本筋の取組ではないのではないかと。例えば、加西市では子育てママ支援、病児保育、病後児保育などいろんなことをやられている。そういった取組を3市1町でもっと強化を図っていくというようなことがメインとして子育て支援の充実の事業にあるべきではないか。
・ 議長	・圏域の将来像については、少し私も感じたところではあるが、どちらかと言えば、フォトマップ的な感じになっているので、3市1町の住民の方の視点でどんなことをしていくべきなのかという住民目線であるとか、トップの方の夢だとかというところも書くということが必要になってくるのかという感じはしている。 ・北はりまの絆ネットであるが、先進的にいろいろされているところがあるので、参考にしながら、さきほど御意見があった内容についても事業として取り組まれるといいのではないかとと思う。
・ 委員	・病病・病診連携事業の役割分担のところで、各病院フェスタの開催だとか他市のフェスタの周知や住民フォーラムの支援等を行うとなっていが、病病・病診連携事業という中で病院フェスタの開催など、普及啓発とかそういうようなものが連携事業のメインの役割なのかというところが少し疑問である。 ・地域医療連携強化事業の中の地域連携パスは、急性期の脳外科や心疾患など、そういったものの回復期や急性期のことで書いてあると思うが、北はりま絆ネットなどの情報のネットワークの方が地域医療の連携強化につながるのではないかと。あくまでこの地域連携パスというのは医療の継続ということを書いてあると思うが、それだけではなくて、この中にそのデータも入るのではないかなということ、ここは記載が不十分ではないかという感じがする。
・ 担当	・病病・病診連携のほうであるが、議論の中で、絆ネットの活用というのは当然出てきており、それを踏まえて病病・病診連携をやっていくということで文言の整理をしているところであり、絆ネットの普及啓発なども含めてやっていきたいと思

	う。病院フェスタの開催などが連携事業のメインの役割なのかという指摘であるが、事業概要のところでもいろいろ取組について書いており、それに基づいてやっていきたいと考えている。 ・それから障害児発達相談強化事業のところ、確かにきずなさんのほうで今地域のほうに医師を派遣していただいているというのは十分認識している。関係する病院等、公共団体のほうで何を進めるかというところからこういった文言にしている。具体的にもう少し活動の幅を広げていただけたかということがあれば、当然見直しの中でそういうところも協議をさせていただきながら考えていきたいと思う。
・ 議長	・今回素案ということで、今日の御意見等、それからパブリックコメントも含めて、案が取れる段階までにもう少し3市1町の中でも協議していただきながら、最終の11月末を迎えたいと思っている。これは素案なので、これでいくということではもちろんないということで進めさせていただきたい。
・ 委員	・定住を促進する、若い方にできるだけこの圏域内に移住していただくという本来の趣旨があるわけであるから、それを支援するには医療体制が充実しているということが一番だと思う。それぞれの病院の特徴や専門性など、そういうものをできるだけはっきりとさせるとともに、子育てで特徴を出して、支援のために小児の救急医療、病児保育をどうするかなど、そのあたりを特徴的に強化した内容を書く方がこの地域の特性とか定住促進につながるような内容になるのではないと思う。 ・医師や医療者の相互派遣や研修などは、とても大事なことで、もう少し強調した記述にされて、これからもそのような医療従事者の研修や教育の機会をそれぞれの病院の特徴に応じて更に強力にアップしていくという表現にしてはどうか。
・ 議長	・今回の構想というのは定住をいかに促進していくかという視点で考えるべきではないかという御意見であり、子育て支援についても、そういう側面から支援できるようなスキーム、支援内容というものがもう少し考えられないのかということだと思う。そういう観点で何か事務局のほうでも案を出していただけたらと思う。
・ 委員	・定住を促進するためには教育の面の充実が非常に大事だと思う。共生ビジョンを推進する上で、独自にプラスアルファで、こういう研修をしてほしいとかという要望があれば、大学としても応えられるだけのことはするので、構想を出していただきたい。 ・単なる施設利用だけではなくて、専門家によるいろんな年代層への魅力のあるプログラムの提供が必要ではないかと思う。だから、施設を使いやすくするという一面、もう一つは、利用していただく方にうまく使っていただく、あるいは効果的なスポーツができる、交流ができる、そういうプログラムを提供していくというのが必要ではないかと思う。住民の皆さんの健康づくりという観点から、地域での取組が必要であると思う。地域の生涯スポーツの核となっていていろいろ事業を展開していただくとか。そういう意味では、いろんなアドバイスをするような機能、あるいはそういう意味でのマネジメントをできるような専門家の育成、こういうものも非常に大事ではないかと思っている。それからもう一つは、自治会とかいろんな団体があるので、そういうところも一緒になって健康づくりに取り組んでいく、こういうものが仲間づくりであったり、まちづくりであったり、そういうものにつながっていくのではないかと考えている。そういうことを地域で取り組みながら、この3市1町の交流も中身が濃いものになるのではないかと考えている。 ・文化に対する目線というのが余りに低いと感じた。人がまちに定住する、住むところの一番の基本に文化があると私は思っている。文化ホールというのは、まさに人を育てる場所であり、まちづくりの核になっていく一番楽しみながら動いていける場所である。そういう視点を持ちながらのこの位置づけの言葉がもう少し欲しいと思う。今回の項目は2つ出ており、図書館とスポーツ施設相互利用であるが、この中に文化ホールというのは項目としてはない。もう少し、そういう文化ホールの活動に人々がどうかかわっていくかというあたりの目線というのを大切にしていってほしいと思う。
・ 議長	・この素案の様式が決まったような感じの中に埋め込まないといけないのかもわからないが、もう少し、気がつくというか、目立つような、ここの3市1町ならではの

	という表現をもう少し書き加えたらどうか。 ・兵庫教育大学との連携講座事業のところに子育て支援を図るという文言が事業概要のところにでてきており、それと、例えば福祉のところを、子育て支援のところと何か結びつけることができないか。 ・先ほど、健康・福祉づくりの取組も必要だと、そこでも例えば専門家を育成したい、する必要があるという話があったが、例えばそこにも兵庫教育大学のほうで何かそういうプログラムを開発していただくとか、そんなこともできるのではないか。
・委員	・小規模、中規模、大企業の工業団地、これらの連携というものが今非常に不安定な状態にあるという状況である。そんな中であって、ブランド化とあるが、播州織、播州釣針など一部の地域に偏り、多可町や加西市にそういったしっかりとしたブランドのものがいないというのがこの地域の特徴ではないか。今、各地でプレミアム付商品券の発行が行われているが、ほとんどがイオンやヤマダ電機など都心部の大手の会社に8割ほどのお金が流れ、残りの2割とか3割がふるさと振興券などで地元の商店に流れていっているというのが今の現状の姿だと捉えている。そんな中で、商工会議所の会員や商工会の会員が零細企業のために毎年1割ぐらい減っており、廃業というような形で減っている場合もある。そんな中で、何とかこの地域で起業してもらえる人がないか、そういう人に対して創業支援を行っていく必要がある、これが今の現状の姿である。 ・創業支援というのはとてもありがたいものではあるが、ここ数年、結構人手不足であったり、創業したがなかなか働き手がいなかったりという問題もかなりあり、また、人材育成や入ってはくれたものの続かないという部分が大きな課題となっていると思う。創業した後、企業などが不安や課題に思っていることなどを支援していただけるようなものがあればもっとありがたいと思う。専門派遣、新しいサービスなどの開発、他社との連携など、実際この地域にある中小零細企業では、やはり自社だけでは今後生き延びていくにはなかなか厳しい時代であることから、そういう部分で支援していただけるものがあるともっとありがたいと思う。 ・北播磨地場産業開発機構支援事業の事業計画で、現状の事業を継続実施と、単純に書いてあるが、やはり定住自立圏の促進ということ言えば、継続ではなくて、強化とか、そういったものにできないか。また、地域資源のブランド化という意味では、北播磨地場産業開発機構だけが地域資源のブランド化ということではなくて、もう少し何かあってもいいのではないかとと思う。 ・西脇市が今年からファッション都市構想ということで、播州織などで将来の創業を目的とされた方が3年間毎月補助を受けて、その期間中いろんな修業を積み、その先で創業して地元根づいて生活していくといった具体的な事業があるが、この事業の内容は、非常に表現が難しく、一体何をやるのかわかりにくい表現になっており、もう少し具体性のあるものがあってもいいのではないかと感じる。 ・山田錦ブランドについては、加東市、多可町もそうであるが、西脇市、加西市もたくさんの山田錦を作っている。このさらなるブランド化をというところの取組を書く方がいいのではないかとと思う。地域資源のブランド化という表現が協定で決定されているが、その下に何を入れるのかというのがこれでは不十分過ぎると思う。どういう施策をするのかというところを書いた方がいいのではないか。それから、高齢化が進む中で農業後継者がどんどん減っている。少子化、高齢化という問題もある。そうしたときに、この事業、産業をどうするのか。先になったら消えてしまうのか、そういった意味で、ブランド化については少し記述を増やしていただきたいと思う。
・議長	・山田錦を含めてほかの地域資源のブランド化の可能性についてもまた探っていければと思う。それと、創業支援についても、創業した後の支援も含めて、もう少し記述ができないかといったような感じで、ほかのところについてもそうであるが、この地域ならではの具体的な書込みがもう少しできればというような御意見であると思う。
・委員	・広域防災対応能力強化事業ということで掲げられているが、鞆野飛行場を防衛省から譲り受けて、そこに加西市のほうでは防災拠点を整備したいという思いを持っ

・議長 ・委員	ておられる。だから、加西市はしっかりした防災拠点があり、そこから3市1町と一緒にいろいろ支援ができるというふうなことも考えられるので、そういうあたりも具体的に書けばどうか。 ・各市町とも消防団への若者の加入が少なくなっており、それぞれにおいてそのあり方について検討されているが、北はりま消防組合職員のあり方も考えていかなければ、こういう広域的な消防団活動が発揮できないのではないかと思う。北はりま消防組合職員の全体的な考え方ももう少し具体的にまとめ、これから推進すべきであると思う。 ・住民が安心して定住できるには、防災というのは非常に重要視されているのではないかと思う。そういった中で、事業概要に合同総合防災訓練が出ているが、むしろ各地域の自主防災組織の強化がまず一番大事で、それが広がって、最終的に合同総合防災訓練になると思う。それから、役割なんかでも3市1町が、特色ある具体的な取組分担、そういう記述も少しあればいいのかなと思う。 ・例えば大規模災害が起こり、この3市1町の全てインフラがやられて、備蓄倉庫も使えない状態になったときに、どこから助けてもらうのか。この地域を襲う大規模災害、地震、南海・東南海、神戸の地震のときにあったような、ああいう身動きがとれないような状態になったときに、応援を圏域外からどういう形でもらうのか。そういったところもどこか記述の中に入れていいと思う。 ・具体性が薄いのではないかということについて、いくつか指摘があったが、それについては、また検討をいただきたいと思う。 ・公共交通のニーズの把握というのは実は非常に難しく、実際走らせてみないとわからないという部分がある。行政と一緒に調査研究し、その結果ニーズがあるという判断になれば、既存路線の再編であるとか、3市1町を結ぶ新たな路線についても、協力させていただきたいと考えている。今回北播磨広域定住自立圏ということで、そういったニーズがあるかどうかかわからないが、3市1町を結ぶ路線バスというものが実現できれば、3市1町の連携というのが一般の方から見ても形としてよくわかっていいのかなと思う。 ・自然豊かないい地域であるが、交通手段が十分でないというのがあるし、これから高齢化とともに車を運転できなくなる方が多くなれば、買い物難民や病院に行けないなど、そういういろんなことで住みにくさがだんだんと強くなってくると思う。このことから、圏域住民の全体の交通手段をどのようにするのかということについては、きめ細かな調査が必要だと思う。その結果を踏まえて、利用促進ということだけでなく、車を持たなくても生活できるとか、年をとって自分が車の運転ができなくなってもそこで暮らしていけるというような、そういう視点で北播磨圏域内全部を網羅した公共交通の横断的なガイドブックを将来つくってもらえたらと思う。 ・神姫バスの路線バスが廃止された場所に住んでいるが、そのバスにお金を払って乗ったことはなく、公共交通がなくなってやっとその大切さに気づいた。自分たちが運転できなくなったらどうするのかと言われたら、その路線バスの代わりの週2回のコミュニティバスで我慢するしかない。役割分担のところを見ても、この市も同じことが書いてあり、本当に具体的なものが出てこない。これはやはり何とかしていただきたいと思う。 ・人口減少必須の中で、交流を増やしていくというところはもう外してはいけない段階になっている。この地域の売りは、何ととっても美しい自然だと思う。そこをいかに魅力的に発信していくかというところが終着のポイントになっているように思う。多可町では登山ツアーや春にオープンガーデンをやっている。特にオープンガーデンでは、人気のある庭になると、一月ほどの間に1,000人以上のお客様がお見えになっており、個人的な交流も随分増えている。そういうところから生活の楽しさとか活性化が生まれていると思う。それぞれのところで自分のところのよさをいかにうまく魅力的に発信できるかというところが、交流、集客のポイントになると思う。 ・今回多くの意見をいただいた。パブリックコメントも踏まえて最終の案に持っていければと思う。一応この素案については、御意見を頂戴したという形でまとめさ
-----------------------	--

	せていただきたいと思う。 ウ 北播磨広域定住自立圏共生ビジョン（案）のパブリックコメントについて 〔資料７〕 意見等なし 6 その他 (1) 次回の会議について 次の日程等で開催することに決定 ・日時 平成２７年１１月１８日（水）午後７時～ ・場所 加東市役所 (2) その他 7 閉会
--	---